

政策番号	12	政策分野	国際化
------	----	------	-----

基本方針	1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。
------	--

担当局	総合企画局	共管局	産業観光局
-----	-------	-----	-------

政策に関する 主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン 京都観光振興計画２０２０ 京都市MICE戦略２０２０
--------------------	--

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	28 年度	29 年度	30年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	京都市国際交流会館登録ボランティア数(人)	421	800	a	a	673	686	703	97.6%	a
2	コンベンション開催件数の世界順位(位)	56	35	a	a	44	50	43	83.7%	a
				a	a					a

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	28年度	29年度	30年度
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信(1指標)	a	a	d
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進(2指標)	a	a	a
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進(2指標)	b	a	b
(3施策平均)		a	a	b

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価＝1:0.5)	28年度	29年度	30年度
	a	a	a

2－1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		28年度	29年度	30年度
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	a	a
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	a	b	b
3	国籍、民族、文化等が違っても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらせるまちになっている。	c	b	c
4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	b	b	b
政策の市民生活実感調査総合評価		a	a	b

2－2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

28年度		29年度		30年度	
順位	%	順位	%	順位	%
21	74.8%	22	74.1%	22	76.3%

3 総合評価

A	政策の目的が十分に達成されている		
【客観指標総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		29年度	A
【市民生活実感調査総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		28年度	A
【総括】 外国籍市民等が身近な地域社会で活躍し、多文化が定着していると実感していただけるような取組を実施しているものの、市民生活実感調査総合評価が今回a→bと下がっている。市民に国際都市及び多文化が息づくまちとしての京都を実感していただけるよう、各施策に係る取組を推進する。			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		28	29	30
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	A	A	B
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	A	A	A
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	C	B	C

<今後の方向性>

①世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信

・世界の人々を引き寄せるまちの実現に向け、文化、産業、大学、環境等、京都が持つ魅力を世界に発信するとともに、安全情報をはじめとした各種の行政情報などの多言語化、MICE推進体制の強化、国際交流の拠点・コンベンション機能の充実や受入環境の整備を推進する。

②市民主体の国際交流・国際協力の推進

・歴史都市・京都が積み重ねてきた先進的取組の発信や友好交流都市(姉妹都市・パートナーシティ)をはじめとした各都市等との国際交流・国際協力を推進し、国際社会に大きく貢献するとともに、市民、民間レベルでの国際交流の定着を進める。

③外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進

・多文化が息づくまちの実現に向け、地域での多文化交流、外国籍市民等へ向けた情報提供はもとより、外国籍市民等が地域社会で活躍できる機会の拡充を図る。具体的には、生活支援やコミュニケーション支援の取組の一層の充実を図り、誰もがくらしやすいまちづくりを進める。
 ・また、多文化共生に対する市民の実感を高めるため、市民が外国の文化や言語に触れ合う機会を提供する「京都市国際文化市民交流促進サポート事業」や京都市内の大学に在籍する留学生を市内の小学校や中学校に派遣し、国際理解につなげるプログラム「PICNIK」の取組を充実させる。
 ・さらに、ヘイトスピーチなどの差別を許さないまちづくりを進めるため、公の施設等の使用手続に関するガイドラインを策定するなどの取組を実施してきており、引き続き啓発等の取組を充実させる。

上記の3つの柱に沿って国際化を進めるにあたり、現在本市が全庁的に進めている、世界文化自由都市宣言の理念共有、レジリエント・シティの推進、SDG sの推進も念頭に置きながら、実施していく。

政策名	12	国際化
-----	----	-----

指標名	京都市国際交流会館登録ボランティア数（人）		
-----	-----------------------	--	--

担当部室	国際化推進室	連絡先	2 2 2 - 3 0 7 2
------	--------	-----	-----------------

1 指標の説明

京都市国際交流会館に登録するボランティアの数

2 指標の意味

住むひとにも訪れるひとにも魅力的な国際都市への進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：（公財）京都市国際交流協会調べ

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	421	800	過去最高値（平成20年度406人）から倍増

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	28年度	29年度		数値	根拠	
数値	673	686	13人増	703	過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（年約33人増加）	97.6%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、市民や民間団体の自発的な活動意思によるところが大きいことから、80%以上をa評価とし、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
a	a	a

1 指標の説明

1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議件数の世界順位

2 指標の意味

経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：国際会議協会（I C C A）「国際会議開催統計」

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成28年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	56	35	京都市MICE戦略2 0 2 0

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	28年	29年		数値	根拠	
数値	44	50	6位下降	43	平成25年実績（55位）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（年2.86順位上昇）	83.7%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		35	32年度	57.1%	「京都市M I C E 戦略2020」	

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
a	a	a